

令和4年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
<p>1 学習指導： ICTの活用を推進するとともに、探究型授業の充実をはかり、主体的に学ぶ生徒を育成する。</p>	<p>① 生徒が「予習→授業→復習」の学習サイクルを確立し、主体的に学習に取り組むようにする。 新教育課程の観点別評価を生徒に示すことで、「主体的態度」を生徒に意識させるとともに、生徒が主体的に取り組むやすい課題の精選を行う</p>	<p>1, 2年生の平日家庭学習時間平均が3時間以上である生徒が A: 50%以上 B: 45%以上 C: 40%以上 D: 40%未満</p>	<p>7月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年生: 42.1% (40.3%) 2年生: 28.2% (44.4%) 1, 2年: 35.2% (42.4%) 【達成度D】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同期より1年生は増加したが、2年生は減少した。2年生は1年次の時より勉強時間が減少している。 ・2年生は現状に満足している雰囲気があるため、高い目標を設定させ、より意識の向上を図る取組を実施する。 ・学習習慣が特に定着していない生徒には、担任などによる面談で個々の状況を把握し、学習の意義などを伝えることで自主的な家庭学習の改善につなげたい。
	<p>② 変化の激しい社会の中で、生徒が将来様々な問題や課題に直面しても対応できる論理的思考力や表現力を身につけるような授業の改善として、研究授業を活用しての教科内外での授業の工夫等の共有などを行う。</p>	<p>「授業を通して思考力が高まった」、「授業を通して表現力が高まった」の問いに対して「あてはまる」と答える生徒が A: 50%以上 B: 40%以上 C: 30%以上 D: 30%未満</p>	<p>7月 生徒による授業評価結果 「あてはまる」と答えた割合 思考力が高まった: 41.4% (40.4%) 表現力が高まった: 36.6% (35.5%) 平均: 39.0% (38.0%) 【達成度C】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、表現力ともに年々上昇し、今年度は、昨年同期より1ポイント上昇した。思考力より表現力が約5ポイント低い傾向は例年の通りである。 ・学年別では、1年生: 44.1%(昨年同期33.5%)、2年生: 33.9%(同40.0%)、3年生45.6%(同42.5%)であり、1, 3年生で大きく上昇している。 ・「思考力」及び「表現力」はどの教科でも共通に必要な能力である。引き続き、あらゆる場面を通して高めていく。
	<p>③ 適切な発表技術等を生徒に教えるとともに、自分の意見や調べたことを発言・発表できる場を授業や学校行事等に設定する。失敗をおそれずに応答や意見発表ができる生徒の増加を図る。</p>	<p>「必要な場面で積極的に発言・発表することができる」と答える生徒が A: 55%以上 B: 50%以上 C: 45%以上 D: 45%未満</p>	<p>7月 生徒アンケート結果 よくあてはまる: 18.2% (20.2%) おおむねあてはまる: 50.2% (46.8%) 合計: 68.4% (67.0%) 【達成度A】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年同期より「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」の計は若干上昇した。 ・新型コロナウイルスによる、発言等の場面の制限が緩和されたことで、授業中での発言の場面が増加しているため、上昇したと考えられる。今後は、発言の場を増やすだけでなく、質的な工夫も行う。
	<p>④ 探究型授業の基盤となる豊かな知識を身につけるため、生徒の読書活動を推進する。また、二水版ビブリオバトル(競技スタイルの書評プレゼン大会)を充実させることにより、的確な発信力の育成にも一層努める。 また、図書館以外でも本を借りることができる移動図書館の取り組みを昨年に引き続き行うことを検討する。</p>	<p>図書館の貸し出し冊数が A: 4,000冊以上 B: 3,500冊以上 C: 3,000冊以上 D: 3,000冊未満</p>	<p>4月からの図書館の貸し出し冊数 1,047冊 (2,310冊) 【達成度D】 (※7月末時点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、昨年度に比べると貸出冊数が半分以下となっている。これは1年生対象のオリエンテーションが例年ほどの時間がとれなかったこと、授業での図書館の活用が減ったことが原因と考えられる。 ・今後は、授業での活用を増やしたり、特設コーナーを設置するなどの、生徒が図書館に足を運んだり、本と出会えるような工夫を行う。
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業を通して思考力が高まった」、「授業を通して表現力が高まった」という質問はとても抽象的なので、その根拠を示せるような記述式の回答の工夫が必要である。 ・図書館の貸出冊数が昨年に比べると半減しているため、減った原因を明らかにすると共にその対策を行う。 ・家庭学習時間については塾の時間なども考慮する。 			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「思考力」や「表現力」についての質問は根拠を含めて問えることができるように検討する。 ・図書館の貸し出しについては、授業での活用が減ったことが一因であるため、授業での活用を増やすことで貸出数の増加を図る。 ・家庭学習時間については、塾の時間なども入れる。 			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
2 進学指導： 生徒の進路意識の成熟を促し、高い目標を強い意志を持って実現する生徒を育成する。	① 3年学年団と協働し、外部模試の判定結果のみに志望校を左右されずに自己の志望を貫ける生徒を育てる。個人面談や学年集会等で年度当初から声かけを励行する。 1, 2年生から3年生を意識した大学への意識付けを行う。	3年生の9月段階で難関大・金大を志望する生徒が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満	9月初旬に志望校調査を実施予定	・7月進研模試では、243名の生徒が難関大・金大を志望しており、全体の60%を超える割合を占めている。 9月初旬に志望校調査を実施予定である。
	② 進路検討会や日常の情報交換を通じて、授業や部活動で関係する生徒の成績を進路及び学年全体で把握し、進路志望について助言に努める。	「授業を受け持つ生徒や顧問をしている部の生徒の成績を把握し、進路志望についての助言に努めているか」の問いに対して、「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える教員が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる：31.0% (21.1%) おおむねあてはまる：46.5% (60.6%) 合計：77.5% (81.7%) 【達成度C】	・「よくあてはまる」の割合が昨年同期に比べ増加した一方「おおむねあてはまる」の割合が低下したが、「合計」では4.2ポイントの減少となった。 ・今後も、進路希望調査や模試ごとに、生徒の成績や志望校の情報の共有を行うとともに、進路検討会での協議などを踏まえた生徒の進路志望についての助言を行う。
	③ 保護者懇談や保護者対象の進路説明会、生徒への面談をとおして、生徒の進路に関して保護者と緊密な情報交換を行い、信頼関係を築く。特に3年生の保護者には、5月及び8月に進路説明会を行い、改革された入試制度について、本校の実績を踏まえて丁寧に説明する機会としたい。	「本校の進路指導や保護者への情報提供は適切であるか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える保護者が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	7月 保護者アンケート結果 よくあてはまる：16.4% (16.4%) おおむねあてはまる：63.7% (60.9%) 合計：80.1% (77.3%) 【達成度B】	・「よくあてはまる」の割合は昨年同期と同じであるが、「おおむねあてはまる」の割合は増加し、「合計」では2.8ポイント増加した。 ・今年は、5月の学年別の説明会が学校で実施できたことが、ポイントの増加に繋がったと考える。 ・3年生の保護者に対しては8月に説明会を実施済みで、2年生、1年生の保護者に対しても、9月に対面式の説明会を計画し、情報提供を予定している。的確な情報提供に努め、保護者のニーズに応えたい。
	④ 担任面談、学年集会、進路講演会、進路説明会等で目標達成に向けての生徒の取り組みを評価し、意欲を高めるとともに、大学に応じた入試対策を充実させることにより進路実績の向上を図る。	現役合格者数が 金大80以上、難関大30以上 A：両方を満たす B：どちらか一方を満たす 金大70以上、難関大20以上 C：両方またはどちらか一方を満たす D：両方を満たさない		
学校関係者評価委員会の評価	・部顧問からの学習指導については、データをどのように用いた指導を行い、どのようになったのかを管理職が把握する。 ・昨年度までの進路の好結果の原因を分析し、それを今後の指導に活かす。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・部顧問の学習指導については、管理職が把握し、必要に応じて指導・助言を行う。 ・昨年までの成果は、特別なことではない当たり前の指導を丁寧にやった結果だと捉えているので、今年度も同様な指導を継続する。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
3 生徒指導・部活動: 人間形成に主眼を おいた生徒指導を 行い、進学校にふ さわしい部活動を 追求する。	① 部において、効率的な活動による生徒の学習時間の確保や、部員が勉強に主体的に取り組む姿勢をもつような指導を工夫することで、勉強と部活動の両立を図る。また、部活動で得た自信を勉学につなげ真の文武両道を目指す。	① 「勉強と部活動の両立ができて」と答える生徒が A : 80%以上 B : 70%以上 C : 60%以上 D : 60%未満 ② 高校総体の学校順位が A : 8位以上 B : 10位以上 C : 12位以上 D : 13位以下	① 7月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年 : 66.5% 2年 : 61.5% (69.4%) (72.8%) 3年 : 78.1% 全体 : 68.7% (74.7%) (72.3%) 【達成度C】 ② 年度成績は冬季競技終了後に確定	・3年生は値が上がっているが、1年生、2年生ともに昨年に比べ値が下がっている。特に2年生では11.3ポイント減少している。 ・例年は学年が上がるにつれ、部加盟人数が減少する傾向がある。しかし、現在の2年生については1年生の時よりも部活動加入人数が増加している。このことから、従来とは異なった指導を考える必要がある。
	② 生徒が自主的に挨拶を行うよう、生徒会等の挨拶運動を継続するとともに、教職員自らが積極的に挨拶を行うことで範を示し、教職員、生徒の自覚をさらに高める。	「挨拶はしっかり行っている」と答える生徒が A : 60%以上 B : 40%以上 C : 20%以上 D : 20%未満	7月 生徒アンケート結果 よくあてはまると答えた割合 1年 : 46.4% 2年 : 34.3% (43.8%) (42.0%) 3年 : 38.8% 全体 : 39.8% (37.8%) (41.2%) 【達成度C】	・昨年同時期より、やや数値が低くなっている。 ・現在行っている生徒会のあいさつ運動、部活動での指導を継続し、生徒の自覚を高めていきたい。
	③ 本校の「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめアンケート、個人面談・保護者懇談や学校行事等の取り組みを確実に実施することで、いじめの予防や、早期発見を行う。	「十分取り組んでいる」と「取り組んでいる」と答える教員が A : 95%以上 B : 90%以上 C : 75%以上 D : 75%未満	7月 教職員アンケート結果 十分取り組んでいる : 54.9% (46.5%) 取り組んでいる : 45.1% (52.1%) 合計 : 100% (98.6%) 【達成度A】	・今年度も、生徒との面談や職員間での情報の共有を行うことで、いじめにつながりかねない人間関係トラブルを早期に把握し、その後の指導等に役立てる。
	④ 日頃からの生徒観察をとおして気づいたことを見過ごさず、すばやく共通理解を図り、学校全体が連携して的確な対応を組織的に行うシステムを構築するとともに外部機関と連携し、心身の調和を基盤とした生徒の人間形成を図る。	「担任・教育相談室・保健室等と連携し、問題(悩み)等を抱える生徒の早期発見・早期解決に努めているか」の問いに対して「よくあてはまる」と答える教員が A : 70%以上 B : 60%以上 C : 50%以上 D : 50%未満	7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる : 49.3% (57.7%) おおむねあてはまる : 47.9% (40.8%) 合計 : 97.2% (98.5%) 【達成度A】	・配慮の必要な生徒について、関係者との連絡会を定期的に行い、共通理解を図ることで、適切な対応を行っている。 ・悩みや問題を抱える生徒について、関係職員やSC、SSWと連携し、組織的に支援していく体制を継続していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラー、LGBTQ、校則の見直しのような、「人権教育」に係る新たな観点についても学校評価で取り上げる。 ・学校経営計画にあげている、グローバル人材の育成に係る評価がない。 ・コロナ禍で、この3年間は特殊な状況になっている。データを分析する際には過去3年だけでなく、さらに前のデータと比較し分析する必要がある。 			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方針	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材の育成や人権に係る評価項目を付加することを検討する。 ・分析する際には、過去3年より長期のデータを用いる。 			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
4 学校組織： 業務の効率化を進めつつ高い使命感を共有しよりよい教育活動を追求する。	定時退庁日等の設定により、タイムマネジメントについての意識を高めるとともに、業務の見直しや会議運営の効率化、ICTスキル向上等により職員のワークライフバランスを図り、教育活動の質を高める。	「効率化やタイムマネジメントを意識した業務の遂行に努めている。」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が、 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる : 23.9% (23.9%) おおむねあてはまる : 49.3% (50.7%) 合計 : 73.2% (74.6%) 【達成度B】	<ul style="list-style-type: none"> ・「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が73.2%と、昨年同時期とほぼ同じである。 ・今後は自動採点システムの活用など、ICT化を進めることで、業務の効率化を図る。
学校関係者評価委員会の評価	・タイムマネジメントについては、管理職が現場の声を教育委員会に上げていくことが重要である。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・多忙化の改善に向け、教員の声を聞き、校内の業務の効率化を図るとともに必要事項については教育委員会にも伝える。			